

関東甲信越 地域に根ざす建築作品・活動 カタログ2016 【受賞作品一覧および受賞作品審査委員講評】

賞	部門	代表カテゴリー	タイトル	講評	応募代表者	所属
大会特別賞	建築作品部門	④低炭素型社会の推進	根羽村高齢者福祉施設 ねばねの里「なごみ」～「根羽杉」で環境立村を目指して～	長野県の最南端に位置する森林豊かな根羽村の福祉施設である。村長かつ森林組合長のもと、根羽杉のブランド化・地域活性化に取組み、製材から加工（JAS認定工場）、バイオマスボイラーの導入、そしてその材を用いた施設整備に及ぶそのホリスティックなあり方は、自然素材としての木材利用の理想的な活用だといえるだろう。つまり地域ぐるみの「活動」がおのずと「作品」として結晶化するのだと思う。ものづくりのプロセスを私たちも学んでいくべきである。	松下重雄	(有)みずゞ設計
大会特別賞	活動部門	②建築物の保存問題全般	新潟まち遺産の会	新潟市は350年以上の歴史を持つ湊町である。この会は、新潟に残る町屋建築などの歴史的・文化的遺産が積極的に保存活用され、次の世代に継承されることで新潟が歴史の感じられるまちとなるよう、種々の活動を行なっている。市民の理解を得、専門家やJIAなどとの連携もはかり、保存活動を進めて行く中で、柔らかな発想と地道な活動の成果が、実際に建物や景観が残ってきた事実として表われている。今後の活動にも大いに期待したい。	大倉 宏	新潟まち遺産の会
地域特別賞	建築作品部門	①まちづくり全般	千葉県流山市 秋元邸・秋元酒店	歴史的景観を持つ街道沿いに、敷地の1/3を既存改修として残り2/3を新築として計画している。新築部分では街並みとの調和を意識しながら新たなデザイン要素を提案しており、建物に囲まれながら街に開かれたポケットパークの新設と共に、建築が街並みに好影響を与えている良い事例だ。	高階澄人	(有)高階澄人建築事務所
地域特別賞	建築作品部門	①まちづくり全般	埼玉県本庄市 本庄・宮本 蔵の街	閉店した酒問屋跡地にあった三つの蔵を保存再生したプロジェクトであるが、単なる保存再生ではなく、宅地分譲と蔵の賃貸による収入で全体整備費を賄うユニークな事業スキームを考案している。まちづくりの観点からは、歴史的遺産の保存再生の意義もさることながら、新たなコミュニティづくりやデザインコードの統一等による地域のポテンシャルアップすなわち新たな名所づくりに取り組んでいる。不動産事業としても、蔵を壊して最低限の道路付けを行った単純宅地分譲よりも、はるかに高付加価値の分譲事業になっていると考えられる。単体建物の新築設計監理だけではない、これからの時代のコミュニティアーキテクトの一つのあり方を示す好例であり、全国の建築家に是非参考にしてほしいプロジェクトと考える。	戸谷正夫	(有)戸谷正夫建築設計事務所
地域特別賞	建築作品部門	①まちづくり全般	マチの記憶の継承 江ノ電プラットホームノ記憶を思い起こさせるガーデンカフェ	地域に愛される「江ノ電」に寄り添う形で新しい魅力の空間が現れた。旧ポケットパークに飲食店舗を計画するに際し、鎌倉市、由比ヶ浜商店街、江ノ電電鉄など多くの関係者が快く協力し心とむ新名所が生れる。コンパクトなレストラン棟と商店街のゲートとして開かれたガーデンテラスは四季の移ろいを楽しめる場に。街の記憶の継承としてのプラットホームの復元は普通のガーデンテラスにはない地域への愛着を引き出す巧みな工夫である。	中山信二	(株)中山建築デザイン研究所

関東甲信越 地域に根ざす建築作品・活動 カタログ2016 【受賞作品一覧および受賞作品審査委員講評】

賞	部門	代表カテゴリー	タイトル	講評	応募代表者	所属
地域特別賞	建築作品部門	②建築物の保存問題全般	山梨大学 赤レンガ館	明治期に建てられた日本でも珍しいオランダ積み煉瓦造の旧陸運食糧備蓄倉庫の再生事例である。地域にある歴史的建造物を、地域活動に結びつけてどのように未来へ伝えて行くかは、建築家に与えられた大きな課題。それと正面から向き合い、市民活動の場を作り上げようとする意気込みが、再生された赤レンガ館の内外に表われている。市民と共に活動して地域のタカラものを作り上げた良い事例である。	長田孝三	(株)イズ
地域特別賞	活動部門	①まちづくり全般	浦安旧漁村の住文化の継承	防災性向上とコミュニティの視点を重視した応募案である。浦安市元町地区の木造密集市街地を防災性能の向上・地域文化の継承・まちの営みの再編・地域内交流という4つの方針で、2ヶ年に亘って現地調査と地域住民との対話を通じて実践的な開発手法の提案がされている。今後のまちづくりに求められる「防災まちづくり」の視点で漁村時代を物語る路地の町の新たな暮らしの提案が期待される。	田中大朗	(株)田中大朗建築都市設計事務所
地域特別賞	活動部門	①まちづくり全般	ふじさわこどもまちづくり会議	小学生を対象とした、自らの住むまちの「現在」を知り、「過去」を学び、「未来」を作る、という一連の流れの参加型ワークショップは、学外の学びの場としてとても豊かな経験を生徒にもたらす機会であると思われる。そして19年に渡る活動の継続の中で、かつての子供が大人になり指導の側からこのワークショップに関わるようになったという発展は、まさに「まちづくり」は「まち」の主体である「ひと」の協力によってのみ、成し遂げられることを改めて示している。	三原栄一	ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会
地域特別賞	活動部門	②建築物の保存問題全般	吉田村プロジェクト	かつては主要な地域コミュニティーの場である農協施設であったが、28年前、農協移転に伴い閑散な場と化していた。その貴重な大谷石蔵の残る農協跡地に人々が集い賑わいを取戻そうと地元の農家やデザイナー、建築家、学生らが再生計画「吉田村プロジェクト」を立ち上げ、レストランの出店やイベントの開催を通して地域の大切な場所としてアピールするところからスタートした。今後、大谷石蔵や広場の活用計画をまとめ事業化を目指している。まさに地域の「タカラもの」を見出し新たな価値を育む活動として評価に値する。	永峰麻衣子	小山工業高等専門学校建築学科
地域特別賞	活動部門	②建築物の保存問題全般	(特活) 景観建築研究機構 景観・歴史的建造物の保存整備と活用	群馬県内の歴史的建築・景観・観光資源等の調査・研究や保全計画・利活用計画の提案を行うことを目的に設立されたNPO法人。JIA会員が集結し、専門家集団としての社会貢献を目指している。歴史的建築などに込められた先人の知恵・心意気・メッセージから得られたことを多くの人々へ伝えるために、その翻訳者・伝達者として地域社会へ貢献したいとの意気込みと10年以上にわたる活動を評価したい。	羽鳥 悟	(特活) 景観建築研究機構

関東甲信越 地域に根ざす建築作品・活動 カタログ2016 【受賞作品一覧および受賞作品審査委員講評】

賞	部門	代表カテゴリー	タイトル	講評	応募代表者	所属
地域特別賞	活動部門	②建築物の保存問題全般	地方都市の記憶の継承 —建築物が紡ぐ歴史と文化—	前橋工科大学の学生建築サークルRENOと前橋の歴史・文化の啓蒙活動を行っている市民団体「上州文化ラボ」の合同チームによる地域活動。建築物によって都市の歴史や文化は紡がれてゆくという信念のもと「地方都市の記憶の継承」に取り組んでいる。地域の優れた建築の歴史的、文化的価値を後世に伝える活動を若い学生が軸になって展開していることそのものが地域活性化に明るい展望をもたらしており地域特別賞に相応しい活動である。	平澤宙之	前橋工科大学 大学院
地域特別賞	活動部門	④低炭素型社会の推進	ぐんま木塾 100年杉プロジェクト	真っ直ぐに伸びた美しくたくましい100年杉。この樹木は立ち枯れを待つのではなく、今まさに人々の役に立つために使われたがっている。今使わなくていつ使うのか。複数の専門家により木を隅から隅まで使い尽くす一切を無駄にしない見事な使いぶりにより「美しい家」となり「家具」となり違った姿に変身する。こんな素晴らしいプロジェクトがあるだろうか。地域特別賞に相応しい地域活動であると共に普遍性を有している点が高く評価される。	長井淳一	ぐんま木塾
大会奨励賞	建築作品部門	①まちづくり全般	荻窪家族レジデンス「地域開放型シェアハウスの多世代賃貸住宅」	「地域開放型シェアハウスの多世代賃貸住宅」をつくりたいという施主の強い意志によりこの建築はできている。施主の作成したコラージュを建築家が読み取り、提示した案を施主や協力が者が検討、ワークショップなどを経て出来上がり、地域開放スペースでは様々な行事を展開。上質の賃貸共同住宅の事例が少ない中、高齢者居住スタイルの新しい提案があり、入居者相互・近隣コミュニケーションの爽やかな舞台が用意されている建築である。	連 健夫	(有)連健夫建築 研究室
大会奨励賞	建築作品部門	②建築物の保存問題全般	千葉県・市原市 140年に渡り住み継がれる家 変えたもの／変えないもの／復活させたもの	明治3年に建てられた房総の民家の特徴を継ぐ住宅の大規模改修・修繕・増築工事である。140年に渡り一族が住み続け、その間、時代に即した幾多の無造作な改修も重ねられてきた中、現代の耐震性、温熱環境、住環境の改善が求められた。計画において過去の改修内容や現状の課題を入念な調査によって読み込み「変えたもの」「変えないもの」「復活させたもの」を明確化し次世代に受け継ぐ住まいとしての息を吹き込んだ。住宅レベルでの保存・継承作品として評価に値する。	郡山貞子	郡山建築設計 事務所
大会奨励賞	建築作品部門	②建築物の保存問題全般	櫻介護村計画 1棟目 —無確認建築物のコンバージョン—	都内には確認申請が出されていない木造賃貸アパートがまだ多く残っている。設計者は、果敢にそのような違反建築物に取り組み、既存不適格の証明手続きを通して合法的な建物として再生し、時代が求めるデイサービスセンターに変身させることに成功した。敷地条件やコスト的に耐震構造に改修できない木造密集地の一つの解決手段としてますます重要な開発手法となるであろう。	吉田 晃	吉田晃建築研 究所

関東甲信越 地域に根ざす建築作品・活動 カタログ2016 【受賞作品一覧および受賞作品審査委員講評】

賞	部門	代表カテゴリー	タイトル	講評	応募代表者	所属
大会奨励賞	建築作品部門	④低炭素型社会の推進	「エアコン」ではなく「ラディコン」 身近な技術を用いて理想の放射環境を創る 東京都E邸	居住性や利便性を向上しつつ居住時のエネルギー消費量を半減させることができる「自立循環型住宅」に真摯に取り組んだ都市型モデルの実例である。ここでは断熱外皮・日射遮蔽・換気・暖冷房設備などが綿密に計画され、実測によりその効果が確認されている。「自立循環型住宅」や「ZEH」といった高性能住宅においては、とくに数値で示されるスペックばかりが重視される傾向にあるが、ここでは中間期の開口部の開放や体感温度といった日常の人の身体感覚にも注意が払われていることに安心する。	寺尾信子	(株)寺尾三上建築事務所
大会奨励賞	建築作品部門	④低炭素型社会の推進	もりのいえ—Shelltering Earth—	軽井沢追分に建設中の別荘である。まだ竣工前の、工事中の作品が受賞対象になるのか、という疑問はあるものの、まさしく「ここにしかないタカラモノ」の雰囲気は漂う。それはわずか20坪の別荘でありながら、周辺環境を読みこみ、集成材ではなく太鼓梁によってつくると手刻みの湾曲形状をはじめ、長野の木と土でつくろうとする芸術意欲に満ちているからである。現代の冷たい機械的発想とはなれた、大地から生まれいづる巣としての有機的建築の完成を期待したい。	遠野未来	遠野未来建築事務所
大会奨励賞	建築作品部門	④低炭素型社会の推進	山梨県早川町 早川町役場新庁舎	「日本一人口の少ない町」である山梨県早川町の新庁舎の建て替え案である。設計者は町の「素朴な暖かさ」を地元木材で、「凛とした精神性の高さ」を建物外観で表現し、木材利用範囲を徹底的に追求すると共に、地元森林組合との連携や将来を担う子供たちに参加による外構タイルの使用等を通じて、地元らしさのデザインの創出を図り、地下と1階をRC、2階を木造の混構造として土砂災害にも配慮されている。	長井隆志	(株)佐野建築研究所
大会奨励賞	活動部門	①まちづくり全般	JIA杉並 土曜学校	10年に渡り、地域の人々と共に考え学ぶことを継続的に行い、課題を掘り下げているJIA杉並土曜学校の活動は、今回の支部大会主旨に合致したものであり、新たに設けられた大会奨励賞に相応しい活動と評価された。特に2015年、2016年の活動テーマは今大会テーマと共通しており、大いに興味が湧くものであり、今後より詳細な情報をお知らせいただきたい。	林 美樹	JIA関東甲信越支部杉並地域会
まちづくり委員会賞	建築作品部門	①まちづくり全般	埼玉県本庄市 本庄・宮本 蔵の街	閉店した酒問屋跡地にあった三つの蔵を保存再生したプロジェクトであるが、単なる保存再生ではなく、宅地分譲と蔵の賃貸による収入で全体整備費を賄うユニークな事業スキームを考案している。まちづくりの観点からは、歴史的遺産の保存再生の意義もさることながら、新たなコミュニティづくりやデザインコードの統一等による地域のポテンシャルアップすなわち新たな名所づくりに取り組んでいる。不動産事業としても、蔵を壊して最低限の道路付けを行った単純宅地分譲よりも、はるかに高付加価値の分譲事業になっていると考えられる。単体建物の新築設計監理だけではない、これからの時代のコミュニティアーキテクトの一つのあり方を示す好例であり、全国の建築家に是非参考にしてほしいプロジェクトと考える。	戸谷 正夫	(有)戸谷正夫建築設計事務所

関東甲信越 地域に根ざす建築作品・活動 カタログ2016 【受賞作品一覧および受賞作品審査委員講評】

賞	部門	代表カテゴリー	タイトル	講評	応募代表者	所属
まちづくり委員会賞	活動部門	①まちづくり全般	ふじさわこどもまちづくり会議	都市・まちづくり委員会では、良いまちづくりや良い建築というものはどのように作られるのか分析・議論してきた。その答えの一つは、良いまちづくりや建築というものは、全国どこでも同じではなく、その地域にとっての良いまちづくりや建築であり、それを作るのはその地域の住民であるということ。しかし、欧米に比して日本では、こどもに対するまちづくりや建築の教育がなされておらず、その結果、大人がまちづくりや建築に関心が無いという状況にある。地域の首長を動かし得る地域の住民がまちづくりや建築に関心を持ち、正しい判断力を持つためには、こどもの頃からの教育が非常に重要。建築・まちづくり委員会で研究している英国のCABEの重要な役割の一つもこどもへの教育である。この様に重要な活動を19年も続けている当会議の実行委員会に敬意を表したい。	三原栄一	ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会
保存問題委員会賞	建築作品部門	①まちづくり全般	埼玉県越谷市 ことのは越ヶ谷～蔵のある街づくりプロジェクト～	埼玉県越谷市は旧日光街道が通る歴史ある街。その中に残っていた江戸時代末期に建てられた蔵を、そこにある原風景と共に今に残したいとの想いで、新築4棟と合わせて計画された。街のシンボルとなるよう配し、修繕されている。地元小学校の生徒が課外授業として曳家体験をするなど、地域とのかかわりをもった活動は、築百年を超える建物がまだ残る地域にあって、街づくりの参考事例となるのではないだろうか。	広川 昇	(株)中央住宅
保存問題委員会賞	建築作品部門	②建築物の保存問題全般	東京都豊島区 立教大学 本館(1号館/モリス館)	立教大学は、池袋キャンパスの煉瓦建造物6棟(1918年竣工)を大学のシンボルとして維持する計画で対策を進めてきた。その中心に建つ本館(1号館/モリス館)は、竣工後5年で関東大震災に遭い中央の塔の先端が崩落し、その部分の階数を減らし今日に至っている。「次の100年を迎えてもらうこと」を合言葉に、建物の歴史に寄り添った繊細な配慮で耐震・内装・設備対策がなされた。オーセンティシティーをどう保つかについては大変な苦労があったに違いない。今後キャンパス全体の建物についても、それぞれの時代に建てた、あるいは手を加えた歴史の積み重ねをどのように伝えていくのか大きな課題が残されている。その時重要になるのは、先人の行為に敬意を払い、情熱を持って対応して行く精神性ではないだろうか。今回のプロジェクトに関わられた方々へ敬意を表したい。	古河 大	(株)日本設計 建築設計群
災害対策委員会賞	活動部門	①まちづくり全般	浦安旧漁村の住文化の継承	防災性向上とコミュニティの視点を重視した応募案である。浦安市元町地区の木造密集市街地を防災性能の向上・地域文化の継承・まちの営みの再編・地域内交流という4つの方針で、2ヶ年に亘って現地調査と地域住民との対話を通じて実践的な開発手法の提案がされている。今後のまちづくりに求められる「防災まちづくり」の視点で漁村時代を物語る路地の町の新たな暮らしの提案が期待される。	田中大朗	(株)田中大朗建築都市設計事務所

関東甲信越 地域に根ざす建築作品・活動 カタログ2016 【受賞作品一覧および受賞作品審査委員講評】

賞	部門	代表カテゴリー	タイトル	講評	応募代表者	所属
災害対策委員会賞	活動部門	③災害対策全般	建築・災害などのテレビ番組のデジタル保存・データベース化	災害は「個性的」といわれるのは、地域の地盤のような自然条件だけではなく、発生した時間帯や、平常時に取り組んでいる非常時への備えが整備されているかどうかで大きく左右されるからである。過去の災害の教訓を常に新しい視点で問い直し、後世に伝えて行く努力を惜しんではならない。河西良幸さんの災害情報データベースは、事前復興を学び、連携を模索する方々への貴重な道標となる。	河西良幸	(一財)群馬県建築構造技術センター
国際事業委員会賞	活動部門	②建築物の保存問題全般	地域資源発見活動としての群馬連続建築ツアー	建築学科の学生が自らの就学圏内にある建築のガイドを務めることは、先輩から後輩へと建築の情報や説明テクニックがバトンされる点で活動に継続性があり、地域の文化継承の担い手というアカデミックで重要な役割を果たすのに適役である。若者が地域について語り、過去が未来に継がれる。日本が国策として観光立国を目指し、インバウンドの旅行者数が急増し、国内の国際化が進むことから、遠くない将来、多言語での対応が実現されるであろうことを期待して国際事業委員会賞としたい。	臼井敬太郎	前橋工科大学工学部建築学科(講師)
国際事業委員会賞	活動部門	①まちづくり全般	高崎マーチングフェスティバル—街のあらゆる空間を音楽ステージに—	建築や外部空間の設計とは、空間に人の営みのためのガイドとなる基本的な秩序、目に見えたり見えなかったり、を構成することに他ならない。一方音楽とは、リズム・メロディ・ハーモニーの三要素を用いて「人間が組織づけた音」であり、とりわけマーチングバンドはその構成を視覚的に体現し行進する。空間の構成に、動きのある音楽という構成を重ね合わせた時、人々は響き渡る音をその空間全てと共に楽しむことができる。そしてその感動は高崎にとどまらず地球規模で共有されるものである。	飯井雅裕	高崎マーチングフェスティバル協会
環境委員会賞	建築作品部門	④低炭素型社会の推進	長野県下伊那郡中川村 南駒ヶ岳を望む家(田舎に住む。愛知県知立市よりの移住)	有志で「伊那谷の森で家をつくる会」を起ち上げ20数年、環境共生型建築を数多く手掛けてきた建築家の1作品。伊那谷南部の根羽(ねばね)杉ほぼ100%で、断熱気密施工にも配慮した構法を開発し普遍化を図ろうとしている点が特に優れている。地域材で家をつくることを伊那谷のデザイン指針にしたいと願う姿勢が、近県からの移住者の終の住処・地域交流拠点として中川村に根をおろし「地域に根ざす環境建築作品」となっている。	新井 優	新井建築工房+設計同人NEXT
環境委員会賞	活動部門	④低炭素型社会の推進	土に学べ：版築シェルターの制作 前橋工科大学建築学科 建築設計ワークショップの試み since 2012	前橋工科大学で2012年度から継続している教育。「版築(はんちく)」は湿った土を型枠の中に注ぎ突き棒で何層にも突き固めて積層しつつ、厚い壁を構築する世界の伝統的壁構法。土は調湿性・熱容量等の物性や風合いが見直されている材料。「意匠・環境工学・材料・施工」のチーム指導者による版築シェルターの制作は、学生がものづくりのプロセスを学び、心や体で「考える」ことを求められ、意義深い環境教育・研究・実践活動となっている。	石川恒夫	前橋工科大学建築学科(教授)